

とやま青春の街 Toyama 'SEI-SYUN' Town

この街で、あなたの青春をもういちどみつけてみませんか。

「青春」というキーワードで、南富山の街を創造する。

南富山駅周辺地区は、他の地方都市はもちろ、富山市内の他地域と比べて市内電車やバスといった公共交通が整備されており、利便性の点では恵まれた街であるといえます。しかしながら富山県下では全国平均よりも高い高齢化が進んでおり、商業施設の立地も自動車利用を前提に移行している実態を考えると、将来にわたって人々が集い、快適に過ごせる街を形成するためには、まち自身が個性と目的を持ったものになる必要があります。

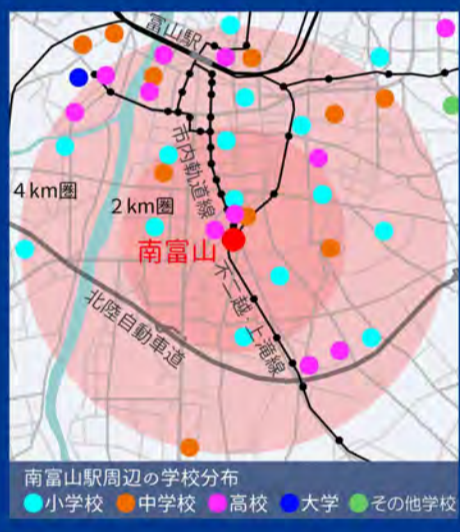
この提案は、「青春」というキーワードを南富山駅周辺のまちの個性として位置づけ、すべての世代の人が創造的な暮らしが出来るようにすることを、まちづくりの目的としています。

1 《現状分析》青春の香りを感じられる街 ～南富山駅周辺地区～

南富山駅周辺は、富山市の中心に近い地域生活拠点として位置付けられています。住宅や生活利便施設・耕作地が土地利用の中心ですが、実は青春の香りを感じられる街という側面を持っています。

周辺に学校が集まる若者の街 未成年に便利な市電が充実 青春映画の舞台になった街

南富山周辺には学校が多く分布しており、特に高校・高等については、4km圏内に市内23校の1/3以上に当たる8校が集中しています。市電やバスにより連携されているこのエリアは、高校生を中心に若い世代が集まる場所だといえます。



2 《まちづくりのコンセプト》 「青春」というキーワードを通して、南富山の街を元気にする

南富山駅周辺地区を活性化するために、「青春」という言葉をまちづくりのキーワードに位置付け、それを基点として、さまざまな具体的施策を展開していきます。

「青春」というキーワードによる、まちづくりの方向性

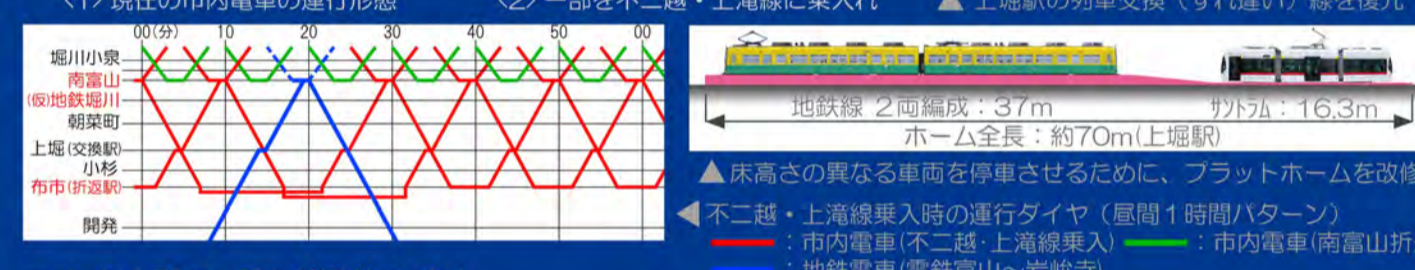
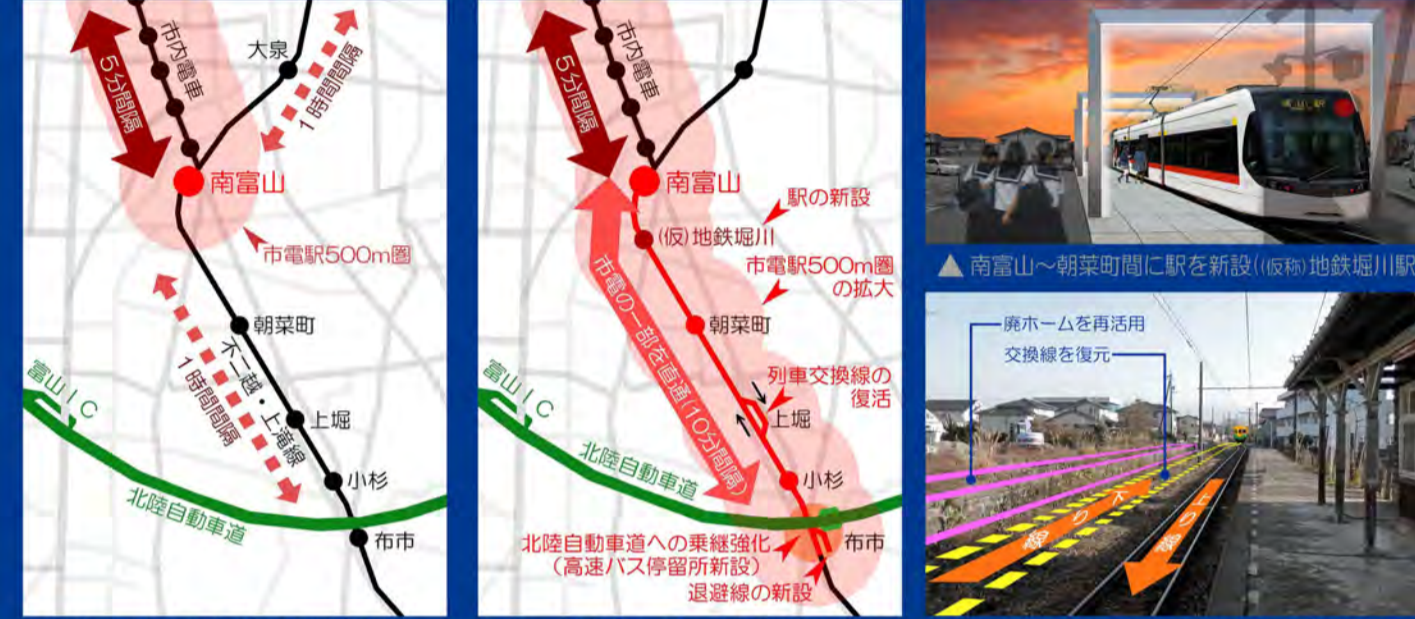
- 青春のエネルギーを開放し 街に若さと活力を与える**
青春時代と呼ばれるのは、主に中学生から高校生の年代ですが、この年代の人が持つスポーツ・創作・恋愛などに対する情熱は若さとエネルギーに満ちています。そうしたエネルギーを街に可視化できるように開放することは、すなわち街に若さと活力を与える事につながります。
- 若者に優しいまちづくりで 全ての世代の利便を目指す**
車を運転できない18才未満の年齢の若者の移動手段は、自ずと公共交通や自転車に限られます。そうした世代の交通利便性を図る事は、自動車を運転できない高齢者や、自動車を所有できない人々にとっても便利な街になるという事です。これは富山市の目指すコンパクトシティの考えにも通じます。
- 成年・熟年代の若返りで まちの活性化につなげる**
今後高齢化が更に進む中で、高齢者の健康増進や外出機会の促進に取り組むことは、まちづくりにとっても重要なテーマです。かつて青春を過ぎた子育て世代や熟年・高齢世代が、肉体的にも精神的にも若返る、すなわち「青春」を取り戻せるような施策を展開することが大切です。

上記の方向性に基づき、次の2つを軸に南富山駅周辺のまちづくりを提案します。

- ① **市内電車の延伸による《交通施策》 南部地域の公共交通整備**
 - 市内電車を不二越・上滝線の布市まで延伸させ、南部地域の利便性を向上させる
 - 南富山駅における、路線バス等の乗り継ぎ機能を向上させる
 - 将来的には、市内電車を富山空港まで延伸
- ② **全ての世代が生き活きと暮らすことができる街に《活性化策》**
 - 高校を地域に開き、住民との交流を促進
 - 散策路/ランニングロードを整備し、高齢者などの健康増進と外出機会を促進
 - 地域全体で子どもを育て、社会的弱者に対するケアを行うしくみを作る

3-① 《交通施策》 市内電車の延伸による南部地域の公共交通整備

■市内電車の富山地铁への延伸運転
南富山駅前から発着する市内電車（市内軌道線）が5分間隔で運行されているのに対し、富山地方鉄道の不二越・上滝線は毎時1本（昼間）の運行で、生活の足として使えないのが現状です。北陸自動車道以南は農地が広がる市街化調整区域ですが、南富山と北陸道の間の上堀・小杉地区には住宅が多く、市内電車の不二越・上滝線への乗り入れが望まれますが、実現には至っていません。乗り入れを早期に実現させる手法として、延伸効果の大きい布市駅までの部分乗り入れを提案します。不二越・上滝線は単線ですが、上堀駅の交換線跡を復活させ、列車のすれ違いを可能にすることで10分間隔での運行を実現し、住民の生活の足として使えるようにします。駅間距離の長い南富山～朝葉町間に、(仮称)地铁堀川駅を新設し、市電駅の利用に適した500m圏を拡大します。北陸自動車道と交差する布市駅付近に高速バス・送迎車の停留所を新設し、富山～関東方面の高速バスへの乗り継ぎや、北陸道上で自家用車で送迎ができるようにします。市内電車と不二越・上滝線は、架線電圧の違い(600V/1500V)やプラットフォーム高さの違いがありますが、乗り入れ車両を複電圧対応に改造し、乗り入れ線のホームの一部を市電車両対応の高さに下げ対応します。市電が利用できる地域が広がることで、中継点である南富山駅周辺の活性化にもつながります。



■南富山駅の乗継ぎ機能の向上

市内電車の延伸に伴い交通の要衝となる南富山駅の機能を改善します。市電の停留所を現在より地铁線寄りに移設し、乗継ぎ距離を短くします。ホームも2面に増設し、入線待ちの時間を解消します。現在離れているバス停留所についても、駅構内までバスを乗り入れる事で市内電車との連携を強化します。駅はガラス張りの上家で覆い、悪天候時も快適に乗り換えが行えるようにします。また、自転車駐輪場を整備し、市内中心部へのサイクルアンドライドのしくみを整えます。



《補足》「青春」の位置付け

- 青春は10代だけの特権ではなく、全ての世代の人々が謳歌できるもの
「青春」と聞くと10代の一時期だけに許されたものと思われがちですが、何歳になっても気持ちは青春時代であることは可能です。そうすることで年齢を経た人でも心身共に健康を維持できるのではないのでしょうか。このまちづくりの提案では、全ての世代の人々が青春を謳歌できるしくみづくりを目指しています。
- 全ての若者が青春を謳歌できるために、地域を挙げてバックアップを目指す
実際に青春時代の真ん中にある人のほとんどは、まちづくりの施策に関係なく青春を謳歌しています。その一方で経済的な理由で満足に食事の摂れない子どもや、いじめ等の理由で不登校や引きこもりになる生徒が少なからずいます。そうした若者が青春を謳歌できるために、地域住民の協力を促したフォローのしくみをつくります。

3-② 《活性化策》 全ての世代が生き活きと暮らすことができる街に

市内電車の延伸により新たな中継点となった南富山駅周辺を、全ての世代の人が生き活きと暮らせる街にする仕掛けを導入します。

- 《街を構成する3つの世代分類》
南富山周辺に暮らす、または通う人々を大まかに3つの世代に分類し、それぞれに適したアクティビティを展開していきます。
- **リア春世代**・・・20歳くらいまでの、リアルに青春を過ごしている世代
- **オトナ世代**・・・20～60歳くらいまでの、いわゆる現役・子育て世代
- **ミニリ世代**・・・60代以上の、人生の収穫・充実期を迎える円熟世代

■高校を地域に開かれた場所に

通常、学校は周囲とは塙で閉ざされているのが一般的ですが、これを地域に開いたオープンスクールとすることで、街に若者の活気を伝えると共に住民との交流を促します。小中学校は保安上の面で実現は難しいですが、高校生の年齢になれば生徒の社会性を養う上でも有意義と考えられます。南富山駅周辺の富山高校・富山いすみ高校の2校について、校門周辺に住民も利用できるオープンスペースを設けます。生徒が昼食を外で取ったり、住民が部活動の練習や生徒の美術作品を見学することができ、生徒と住民や、2つの高校同士の交流も期待できます。不審者に対しては校舎の入口をセキュリティラインとして対応します。

■ミニリ世代(高齢者)の外出も促す 散策路/ランニングロード

人々が充実した生活を送るためには健康であることが大切ですが、高齢者が健康を保つためには、積極的に外出するのが効果的です。しかし南富山駅周辺は交通量の多い幹線道路が横断しており、散策に適した場所が見られないのが現状です。南西部を流れる冷川や、北東部の水路を散策路として整備する事により、地域を周回する東西2つの散策路/ランニングロードをつくり、リア春世代(中学・高校生)は部活動の練習に、オトナ世代は子供との散歩や、日頃の運動不足解消にも利用できます。2つのルートが交わる大町には、既存のスポーツクラブと協同しランナーズピットを整備することで、近郊から来る人がシャワーやロッカーを利用したり、住民が健康に関するアドバイスを受けられようようにします。

■地域全体で子どもを育てる「こども食堂」

富山県は全国的にも高い共働き率を誇っています。保育所の待機児童がゼロなど子育てに恵まれている面もありますが、両親が働いている児童や生徒が放課後も安心して過ごせる場所があると、子どもにも親にも良いと考えられます。南富山駅の近くに「こども食堂」を併設した児童施設を整備します。こども食堂は経済的に困窮した家庭の子供を救うために、地域ボランティアが無料で食事を提供する食堂です。子育てに追われ仕事に就けないシングルマザー世帯など、過酷な環境にある子どもにお預けいっばいの食事と居場所を提供する事で、親子が自立した生活を取り戻すことができます。地域全体で子どもを育てる事は、ミニリ世代の高齢者にも社会参加の機会を提供する事にもつながり、すべての世代がハッピーになるまちの在り方です。

■すべての若者が青春を謳歌できるための 場所づくり(フリースクール・いじめシェルター)

現在、富山市内には小中学校合わせて300人以上の不登校児童・生徒がおり、高校生を含めるとさらに多くの不登校者がいると思われます。また家庭での虐待(DV)や学校でのいじめを受け、統計には表れない水面下で苦しんでいる子どもが少なからず存在します。公共交通の結節点で、市内各地からアクセスしやすい南富山に、そのような不登校・ひきこもり・いじめや虐待を受けている若者も、青春を謳歌できるための施設(フリースクール・いじめシェルター)を設置します。行政的にも、フリースクールでの履修を学校同等の履修とみなし、卒業資格を与える動きに向かっており、こうした施設の整備が今後望まれます。

■健康ポイントによる住民の健康増進

健康ポイントとは、産官学の連携により全国6市で行われている健康ポイント制度の実証実験です。日々の健康努力と、それによる健康状態の改善に応じて、参加者に「健康ポイント」を付与します。ポイントは大手コンビニ等で使える共通ポイントや商品券に交換したり、寄付に使えるようになります。南富山周辺、もしくは富山市内において、このようなポイント制度の導入を行い、住民の健康への関心向上を図ります。自治体には負担が生じますが、その分医療費の削減につながるメリットがあります。地域・社会貢献活動に対してもポイントを付与できるので、まちづくりへの参加促進にもなります。

4 《運営手法》 多様な年代・役割の人々が参加できるまちづくり

交通インフラを伴うまちづくりには、自治体(市)による参画が不可欠ですが、地元の民間企業・施設を利用し、互いにメリットを享受できる協同を進めることも望まれます。例えば駅南側のスポーツジムと協同すれば、ランニングロードを軸に住民の健康ケアのしくみをつくれますし、駅前には本社を置く人材情報サービス会社と協同して、地域活動に参加する人材発掘やフリースクールでの教育や職業研修の運営を行える可能性もあります。また、多様な年代と役割の人がまちづくりのために集まれるように、参加する人が意義を感じやすくする必要があります。特に子育てなどの人生経験を積んだ高齢者(ミニリ世代)に活躍の場所と生きがいを与えられるように、子どもとふれ合える施設や、先述のポイント制度の導入は有効といえます。

富山県・まちづくりの団体・個人による参画	ミニリ世代(高齢者)	再活用/子どもとの触れ合い
	オトナ世代(現役世代)	希薄になりがちな地域交流の提供、子育ての援助・情報交換
	リア春世代(未成年)	まちづくり参加による社会体験、部活動の成果の発表場所の提供
	地元企業	リハビリへの参画により、企業実利を伴う地域への貢献
	自治体(市)	高齢者の医療・福祉費用の削減、子供の虐待等の問題を改善

それぞれの年代・役割の人々が得られるメリット